

人物紹介

隈部 英雄

名古屋大学 青木 國雄

第32回日本結核病学会会長 隈部英雄先生は傑出した医学者であり、結核予防の実践者であり、結核病学会では稀有な指導者であった。並外れた知識、判断力、行動力、先見性と指導力、それに豊かな感性を備え、万人をひきつけるオーラがあった。

隈部先生については、岩崎龍郎先生が編集された「わが道を行く、隈部英雄先生の回想」にすべてが総括されているので、筆者がご紹介するのはおこがましい感がある。しかしご指名をいただいたので、先生の結核予防、結核管理活動を中心に、先生の思想、行動、お人柄に焦点をあてさせていただいた。筆者が先生の薫陶を受けた期間はきわめて短く、不十分な偏った記述のお許しをお願いしたい。

先生の特記すべき学術業績の2, 3だけを最初にご紹介せねばならない。第1は人体における結核菌の生態である。乾酪巣など劣悪な環境条件下の結核菌の生態を光学顕微鏡の時代に明らかにした、世界に誇る画期的な業績である。第2は結核の病理発生的研究、第3は病理解剖所見と胸部X線写真の比較研究である。後者は2000例をこす剖検例研究や多数の臨床観察との比較から、鋭い洞察の下にまとめられた独創的なもので、戦後出版された「肺結核のX線読影」は評価が高く、長く結核臨床家の参考書となった。

先生は、基礎臨床医学研究をとおして医学とは患者救済と予防が第一と考えられ、研究のかたわら、社会に飛び出されて結核予防の実践を始められた。昭和5年、東大医学部をご卒業後、東京療養所に勤務、最初は東京市立大塚健康相談所勤務となり、約1年半、主に貧困患者の訪問診療をされ、治療法のない悲惨な末期患者の介護と癒しに没頭された。その後も、昭和15年、東京鉄道管理局での結核感染と発病の長期観察に協力され、また東部中央県民修練所で社会的活動をされた。終戦とともに中野療養所を退職、結核予防会結核研究所に勤務するや2カ月後には新潟県佐渡で結核検診を実施された。結核予防には一般住民の教育が大事と「保健同人」誌の刊行に協力、自らは「結核の正しい知識」を執筆、連載された。これが全国の患者、住民、一般医師に与えた影響



（写真：青木 國雄）

「わが道を行く、隈部英雄先生の回想」に掲載のお写真

は大であった。

昭和21年7月、まだ食糧難の時期であったが、リヤカーでX線装置を運び、有楽町で結核街頭検診を実施、大衆の啓発運動の口火を切った。この街頭検診は全国的な活動に拡大した。NHKの放送網を通じて結核の知識の普及に努められた。結核予防会では、敗戦で資産を失った同組織の経営改善に努力をされた。予防会に療養所を開設され、不足病床は企業の委託病棟をあてた。このアイディアは病床不足に悩む全国療養施設の範となった。生命保険会社などから寄付を受け健康相談所を開設、早期発見、相談の持続経営を可能にした。昭和23年には結核専門医研修コースを設け、専門家の養成を始め、また予防のためのBCGワクチン製造の拠点をつくった。結核治療指針の制定に尽力、効率的な結核治療の全国普及に努力。昭和26年にはX線技師、保健婦の研修コースをもうけ、医療技術者の指導者養成を開始した。医療技術者の重要性をいち早く認識されたわけである。この頃からWHO、UNICEFの委員として国際的活動を開始された。昭和25年、BCG無効論が世論を揺すぶった

が、先生は科学的根拠に基づいて説得、さらに乾燥BCGの開発を推進され、世界最良のワクチン製造の道を開いた。昭和27年には科学映画「結核の生態」を監修、作成、新しい啓発運動に貢献した。政府の結核対策企画は基本的に重要と考え、専門家として積極的に協力する道を開いた。昭和28年からの全国結核実態調査には中心となり、推計学をもちいた研究デザインを採用、少ない予算をカバーするため、全国の保健所従業員、大学の結核専門医を動員して実施。わが国の結核の現状を正確な数値で把握、その後の戦略確立の道を開いた。予防会研修を受けた医師、技師が全国的に活躍、実態調査精度を高めたことは特筆される。その後の追跡調査も実施された。昭和32年には日本結核病学会会長として、総会運営に新機軸を開かれた。IUAT（国際結核病連合）、WHOなど

の国際機関での活躍も目覚ましかった。国内では科学的根拠に基づいた薬剤の診療指針の設定、治療効率化に貢献され、同時に全国各地をまわり、結核の啓発運動を展開された。

昭和35年結核予防会を退職後は、特に社会医学、疫学研究に関心を深められ、隈部研究所を新宿四谷に設置、産業企業体従業員の結核管理、予防大系の確立にも尽力され、結核患者の身体障害認定基準、増加する回復患者の対策にも貢献された。

戦中、戦後30年間の休まない激労は強靱な先生の肉体をより早く消耗させたのであろうか、昭和39年12月17日クモ膜下出血で急逝された。享年60歳であった。医学とは何かを身をもって後輩に示された国手である。